



あいさつ

学校長
結城昇

同窓生の皆様には、本校の教育の振興と推進につきまして何かと協力とご支援をいただき、深く感謝申し上げます。

また、本年度は創立九十周年の節目の年として数々の記念行事を催しましたが、同窓生の皆様の多分なるご協力をもちまして、無事終えることが出来まして、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

さて、本年度一年間を振り返りまして、例年のない生徒の活躍に目を見張るものがありました。運動部、文化部ともに県を代表する活躍であり、本校の部活動の歴史のなかで、まさに燦然と輝く年度として刻み込まれるべきものであると思います。代表的なものを取り上げてみます。まず、四月に野球部が三十二年振りに春の高校野球県大会に出場し、その活躍は日刊スポーツ新聞にも取り上げられました。五月の陸上競技県総体におきまして、三年大橋正広君が走り幅跳びで三位、三年石井達也君が槍投げで六位に入賞し、東北大会出場を果たしました。六月の県総体では、柔道部の三年小山由姫さんが種目別個人優勝を果たし、東北大会、並びにイ

ンターハイ出場を勝ち取っています。また、九月の仙台北弓道大会で二年八島伸広君が個人総合優勝を果たしました。さらに、十月の県柔道新人大会においては、一年日下友加里さんが六月の小山さんに続いて種目別個人優勝を果たしました。

次に文化部ですが、七月の全日本学生書道展におきまして三年一条瀬七さんが全日本学生書道連盟会長賞に、二年阿部春菜さんが同副会長賞に輝きました。九月には県高校溶接技術競技会で、二年鈴木雅博君が最優秀賞である県知事賞を獲得しました。十一月には、県高等学校写真展で一年虻川和宗君が金賞を受賞し、来年福島県で行われる全国大会に出場することが決定しております。その他の活躍につきましては別欄に詳細が出ておりますのでご覧頂ければと思います。創立九十周年の節目の年、この記念すべき年にまさに花を添えてくれる生徒の活躍でした。ただ、これらの成果は、生徒達の真摯な取り組みもさることながら、熱心に指導された顧問の先生方のお陰でもあり、まさに敬意を表するところであります。今後とも、ますますの活躍を期

待しております。

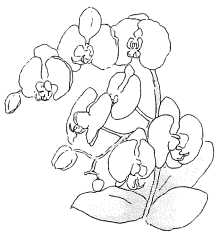
今年度の宮城県教育委員会の教育振興計画の中で、人づくり教育の一環として「志教育」の推進が掲げられています。近年ではキャリア教育の充実が叫ばれていますが、これは労働観や職業観の育成、職業に関する知識や技能を身につける教育を指しています。本県の「志教育」は、さらに、自らの生き方を主体的に探求するよう促す教育を目指しているものです。本校の教育重点目標の中に進路指導の充実が掲げられています。生徒の希望する進路の実現、進路保証一〇〇%を目指した進路指導、三年間を見通した計画的、継続的な指導を学校を挙げて取り組んでいます。一年次では将来の夢や希望を描くライフプランの確立に向けた指導、二年次では職場体験、すなわちインターンシップによる現場実習、三年次では自分の意志と責任で自己の進路を選択し実現する指導を行っております。まさに、「志教育」を先取りした指導であると思います。

ところで、九月はじめに本校の進路指導の取り組みにつきまして、NHK仙台支局から取材の申し込みがありました。一昨年のリーマンショック以降、景気後退からくる就職難の中で、本校の就職内定率がすこぶる好成绩であったことがその理由でした。進路指導部と相談して、

面接セミナーを見てもらうこととし、九月六日から一週間、学校にカメラが入りました。九月十六日、これは高校生の就職試験の解禁日ですが、三年次生の面接セミナーの様子がNHKのニュース番組で放映されました。六時台が「てれまさむね」で、八時台、九時台はニュース特集です。特に、九時台のニュースは全国版でしたが、同窓生の皆さんにもテレビを見ていただけたのではないかと考えています。三年次生の真剣な取り組み、先生方の熱心な指導の様子など、反響は大きかったようです。早速、多方面から電話をいただきました。三年次生の立派な態度はもろろんのことながら、服装、頭髪などもきちっとしており、全国放送で恥ずかしくない姿でした、との内容でした。

- さて、今年度も昨年以上に就職戦線は厳しいものがあり、同窓生の皆さんには何かとご心配をお掛けしております。今のところ、生徒は着々と成果を上げているところです。今後とも、母校を温かい目で見守っていただければ幸いです。
- 仙南総合体育大会
 - 【柔道男子】
 - 100kg級 第3位 菊地 雄大
 - 100kg級 第3位 大久保圭涼
 - 【柔道女子】
 - 団体 第2位
 - 個人 第2位 小山 由姫
 - 【剣道女子】
 - 個人 第3位 伊藤 沙織
 - 【卓球男子】
 - 学校対抗 第3位
 - ダブルス 第3位 大井 翔太
 - 木幡 真二
 - 【バレーボール女子】
 - 第4位
 - 県総合体育大会
 - 【柔道女子】
 - 個人 第1位 小山 由姫
 - 個人 第1位 沖繩インターハイ出場
 - 【陸上競技男子】
 - 走幅跳 第3位 大橋 正広
 - 槍投げ 第6位 石井 達也
 - 全日本吹奏楽コンクール
 - 東北大会出場
 - 県大会
 - 全国学生書道展
 - 会長賞 一條 瀬七
 - 副会長賞 阿部 春菜
 - 仙台北弓道大会
 - 高校男子 第1位 八島 伸広
 - 県高等学校溶接技術競技会
 - 最優秀賞 鈴木 雅博
 - 優良賞 大橋 正広

生徒の活躍



母校だより

文化祭を終えて

実行委員長 佐藤 文也

十月二十九日と十月三十日に
行われた文化祭は大成功をおさ
めました。

今年九十周年という記念す
べき年でもあり、文化祭実行委
員をはじめ生徒会とも協力し、
みんな一丸となって準備するこ
とができました。

一年間を振り返ると、実行委
員であつても集まりにこない人
もいましたが、集まればしっか
りと作業をしてくれたり、決め
事があればすぐ話し合つて決定
することができました。チーム
ワークは良かったのではないか
と思います。

大変だと思つたことは、みん
なをまとめることでした。また、
一部の実行委員の集まりの悪さ
故に、就職活動中の3年生が主
となり活動したことです。今年
は昨年よりも就職が厳しいと言
われている中で、合格・内定し
ている人は良かったのですが、
まだ決まらない人や試験が間近
に迫っている人の分を、みんな
でかばい合い、後輩たちに指示
を出すことができたのは、実行
委員みんなのおかげだと思います
し、そのように協力できたの
が良かったと思います。
反省点は各部署の行動力に差

があつたことや、私自身もうま
く分担することができず、暇な
人たちを放つておいてしまつた
ことです。もう少しうまく分担
して一人ひとりに仕事をうまく
与えられれば、余裕を持つて作
業ができたのではないかと思ひ
ます。

今回こうしてたくさんの方
や反省点がありました。文化
祭全体を見ると、生徒一人ひと
りはとても生き生きとして活動
し、楽しんでいたのでないか
と思います。

来年は今年以上に、そして一
人ひとりが仕事と役割を持ち、
責任を持つて文化祭成功に向け
て頑張つて欲しいと思います。



体育館に展示された全校制作

インターハイを終えて

3年 小山由姫

私は八月八日から十三日まで
沖縄県でおこなわれたインター
ハイに出場しました。

柔道を始めて二年しか経つて
いなかったため、まさか自分が
インターハイの会場にいるとは
実感できませんでした。会場の
雰囲気は例えるなら火のよう
でした。各県の応援ブースがあ
り、試合が白熱していればいるほど
応援ブースも答えるように歓声
が強まっていたのを今でも覚え
ています。

私の試合は最終日だったので、
緊張だけが募っていきまし
た。そこで私を支え助けてくれた
が、他でもない、ずっと一緒に
柔道を続け、私の練習に付き合
い、側らにいてくれた菊地里佳
さんでした。幸い練習に行きた
くないと思つた日も、自分の弱
さに心が折れそうになつた日も、
私が前に進めるように励まして
くれたのは里佳さんでした。マ
ネージャーとしてついて来てく
れたのが里佳さんで、本当に良
かつたと思います。

初めての沖縄はあいにくの雨
でしたが、見るもの触るものが
新鮮に見えました。私にとつて
語尾に「てさあ」と付くのが変
で、面白く感じました。

試合の日は、試合をする前か
ら頭が真っ白でした。試合負け
してしまいました。顧問であ
る津田先生と試合会場の場に立
てたことを本当に良かったと思
います。泣いてしまった私に津
田先生は「よく頑張つた。大丈
夫。」と言つてくれました。私
の中で何かほっとしました。



私はいろいろな人に支えられ
応援されて、インターハイに出
場できたのだと思ひました。何
かを最後までやり遂げるのは大
変で諦めがちですが、辛くても
頑張つて最後まで柔道ができた
ことは本当に良かったと思ひま
す。沖縄県でのインターハイに
行けたこと、柔道を伊具高校で
できたことが私の忘れられない
思い出になりました。応援あり
がとうございました。



■仙南ジュニア陸上競技 選手権大会

- 高校男子 第2位 引地 弘星
- 砲丸投 第1位 船山美麗菜
- 走幅跳 第1位 吉野あゆみ
- 円盤投 第2位 船山美麗菜
- 砲丸投 第3位 船山美麗菜
- フィールド 第3位

■仙南新人柔道競技

- 女子 第1位 日下友加里

■県新人大会

- 射道男子個人 第2位 八島 伸広

■県高校写真展

- 金賞 蛇川 和宗



■23年度全国高文祭出品作品「春色」

- 銅賞 一條 恵理

■県高校生選抜書道展

- 秀作 一條 瀬七

■高校生ものづくりコンテスト 旋盤作業部門

- 優良賞 鈴木 雅博

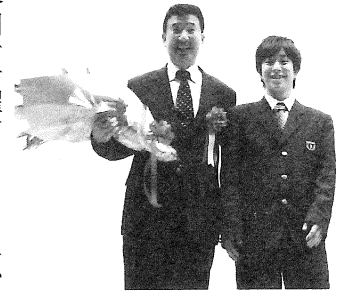
氏(本校商業科第五回卒業)を記念講演に招き、「グローバル化の時代に勝ち残る人」をテーマに記念式典終了後、多数の来賓・在校生・同窓生・父母会の方々に前にして、母校在学時代の思い出話から始められ、現在のグローバル企業としての躍進した㈱ケーヒンの概要を紹介された。

今回の記念講演については、九十周年記念にふさわしい地元企業で活躍されている同窓生に依頼しようと実行委員会の意向を踏まえて、地元にも多くの事業所を持ち、多数の同窓生が勤務されている㈱ケーヒンの代表取締役副社長佐々和幸氏に依頼、快諾していただいた。

今回の講演のため、社内にもスペシャルチームを編成され、パワーポイントを駆使して、グローバル社会に勝ち残る手法を、分かり易く説明され、後輩の将来に期待する内容の濃い印象に残る先輩の講演でした。

在校時代そして入社に至るエピソードを紹介、自動車産業の特質等を資料を用いて説明され、㈱ケーヒンが自動車産業関連の総合システムメーカーとして世界各国に生産工場を開き、従業員一万六千名を擁し、グローバル企業として実績を示した。

次いで、我が国の産業界の現況に言及され、ものづくりと併せて自然を活かした観光立国の推進が重要であり、将来若人が



講演終了後お礼の花束を贈って

諸外国で活躍することこそ、グローバル化時代に勝ち残れるのだと強調された。

そのためには、語学力・国際人としての礼儀、そしてグローバル感性を身につけるため、高校時代に「自己研鑽」に努め、自分を磨くことこそ、社会人として勝ち残れるのだと結論づけられた。真に示唆に富む講演でした。

九十周年記念誌

記念式典部長 小野正彦

(普通5回・丸森支部)

母校創立九十周年記念事業計画の一つであった記念誌「新たな世紀を迎えて」の発刊・編集の仕事を携わった方々に改めて感謝申し上げます。本当に御苦労さまでした。

記念誌の中で特に、同窓生の皆さんから寄せられた寄稿文を丹念に読ませて戴きました。

それぞれ、雁歌の里の学舎で思う存分、青春を謳歌しながら学園生活を送られてきた事が読

み取られ、今更ながら、母校との絆の深さをしみじみと感じた次第です。

さて、今回の記念誌発刊に際して、どうしてもお伝えしなければならぬ事がございます。平成十七年に記念事業が発足されてから、記念誌の発刊準備の責任者として先頭に立つておられた船山次男先生が昨年七月三十日、旅立たれました。返す返すも残念でなりません。先生は、数年前から病魔との戦いを続けてきたのにも拘わらず、同窓会幹事、更に記念誌編集の仕事を通じてこられました。昨年七月九日には、例年のない猛暑の日、同窓会三役会に出席して戴き、その際、編集後記を書き上げられた事等をお話しておられました。その後入院、七月二十二日、お見舞いにお伺いした時にも、先生は「記念誌」の進展状況について心配しておられました。病床にあっても仕事に対しての強い責任感、本当に頭が下がる思いでした。ここで改めて、先生の

ご冥福を心よりお祈り申し上げます。今回、記念誌「新たな世紀を迎えて」



記念誌「新たな世紀を迎えて」

たな世紀を迎えて」は、先生の尊い遺志が受け継がれたものであると思っております。

最後に、今回の九十周年記念事業の企画・運営、その他全般に亘って、直接お仕事を続けて戴いた母校の先生方に、ここで改めて感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

九十周年記念式典に参加して

遠藤 泰 治

(商業2回・関東支部)

一九六六年三月に伊具高を卒業し、相当な時間が経過して、今年二〇一〇年九月下旬、同窓会関東支部長から電話があった。母校の九十周年記念式典に参加してほしい。資料は送付しました。十一月中旬海外出張・旅行のため参加できないとのこと。代理出席の依頼を受け承りました。

こうして母校を思い起こせば既に四十五年の歳月が過ぎてしまっていて、若く元気はつらつとした私も既に中年の坂を過ぎ老年に入り、息子が何人、孫が何人などという時期になっていました。

それでも式典に参加してみると四十五年前の木造教室にいるような気分になり、まるで18歳の若者に返ったような思いがしました。たぶん参加した同窓会の皆もそうだったのではないのでしょうか。まるでタイムマシンに乗ったようです。しかし、現実はそのようではない。既に長い年

月が過ぎて、たつぷりと現実社会にもまれ、その結果として初老期に入っているのです。

今までの時間、それぞれにいろいろなことがあったと思えます。今は社会的にも責任のある地位についている。あるいはまた病気になるまでそこから復活し、現場復帰をして改めて頑張っていたり、また薬を飲みながらの参加もありました。それでも同窓会会員が集まってみると、気持ちにはやはりあの木造校舎に戻ってしまうのです。あのぼろぼろの狭い教室です。いまはもう長い社会体験から、どっしりとした大人になっている。その気持ち、その実績を持ったままあの若かった時代へ瞬間的に帰ってしまおう。丸森の一夜はそんな不思議な時間でした。あれから何日か経ち、写真を受け取り、あの夜のことをまた思い出すと、何故あんなに楽しかったのだろうと考えてしまいます。もう顔もしわが増え、紙が白くなり、人生を俯瞰できました。

宮城県伊具高等学校創立90周年記念



和やかに90周年を祝う、祝賀会より

クラス会だより

母校を訪ねて

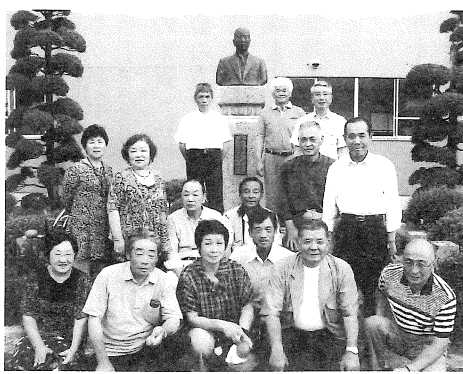
加藤 宗 郎

(農蚕15回・角田支部)

私達は、伊具農蚕高等学校入
学、伊具高等学校卒一回生で
す。あれから四十七年がたちま
した。

前回の同窓会の時、母校は変
わったんだらうな、新しくなっ
たんだらうとの話題になりました
たので、今回母校の訪問をメー
ンに地元開催という事で、平成
二十二年七月七日、七夕の日と
決定致しました。

学校は男女共学でありました
が、私達は農蚕科・家庭科と別々
に学び卒業したものです。久し
振りの合同同窓会でもあり、七
夕の日に開催したものです。
今回の母校訪問につきまして
は、教頭先生を始め事務局長さ



ん方々に大変お世話様になりま
した。新しい校舎、体育館、伸
び伸びと学校生活を送っている
生徒たちを見るに、私達の時代
に過去を振り返る時、想像もで
きない思い出で一杯でした。玄
関の銅像前で記念写真を撮って
いただき、懐かしき母校に別れ
を告げました。

さあ、同窓会です。国民宿舎
あぶくま荘での開催でした。な
つかしい顔々です。幹事独断で
名札をつけなかったものですか
ら、最初は自己紹介です。エッ
・エーとの声が上がリ、昔の名前
と顔が一致しないものですか
ら、疑問の声がちらりこちらか
ら上がりました。久し振りの合
同でもあり、一気にヒートアッ
プした同窓会となりました。

六十五歳。ほとんどが年金生
活、また、第一線で頑張ってい
る人、孫の世話、介護をしてい
る人等、立場はいろいろありま
すが、それを忘れずに戻り、夜
の更けるまで話題は尽きませ
んでした。

翌日は齋理屋敷を見学し、丸
森の歴史を知ることができま
した。
次回の同窓会は、蔵王山麓遠
刈田です。また元気であいま
しょう。

最後になりましたが、母校の
発展をお祈りし、結びとします。

還暦記念クラス会

窪 田 つね子

(生活20回・角田支部)

同窓会事務局様よりクラスの
メンバーの住所の調査の依頼を
受け約九十八%の消息が判明し
うれしく思っていたところ、「還
暦を機会にクラス会を開いては
どうか」という意見が寄せられ
た。時々、有志が集まっては
いたが、全員に声をかけるのは
二十八年ぶりである。

早速、北は八戸、南は大阪
府と連絡したところ五十六人
中、逝去されたクラスメイト
二名を除く二十五名(約半分)
の参加者のもと遠刈田で十月
二十三・二十四日に一泊二日
で開催した。参加者のことを考
慮し白石蔵王駅(新幹線)を集
場所とし、会場までは地元にい
る方に
車の協
力をも
らって
移動し
た。集
合場所
(駅)



て周りにいる方々の目も気にせ
ず、大声で名前を呼び合い飛び
上がって確認し合い握手や抱き
合う光景も見られ嬉しいやらお
かしいやら。会場に到着する
と早速テーブルの上は、持ち
寄った自慢の料理でいっぱい
になり話に夢中。幹事の声など届
かず、大声でクラス会開催の部
屋へ移動を促した。校歌を歌い、
一人一人卒業してからの四十二
年間の出来事を紹介しあった。
泣いたり笑ったりの人生模様
「人生いろいろ」そのものだった。
「一人一人のことを小説にした
ら読み応えがあるね」とある参
加者の一人が言った。会が終
了しても部屋の一カ所に集まり
夜中まで学生時代のことを告白
(?時効)しながらのおしゃべ
り、おおいに盛り上がり何時に
皆があとんにはいったのかはわ
からない。次の日、蔵王チーズ
工場に行きお土産を調達し、カ
フェテラスのあるお店のテラス
のテーブルを四つ占領してコー
ヒーを注文し、太陽を浴びなが
らまた時間を忘れて話して夢中
になり笑い声を蔵王の山に轟か
せた。三年後また合うことを約
束して解散した。

同級生って良いですね

加藤 悦子

(生活20回・館矢間支部)

還暦を迎えた年の晩秋に、蔵
王山麓を会場に懐かしい友だち
との再会ができました。

高校卒業以来の友だちも沢山
あり、白石蔵王駅集合に「私を
覚えていてくれるだろうか」「わ
かってもらえるだろうか」と不
安だらけでした。待合室に一人
ひとり集まる姿を見つけると
「久しぶり!」「元気があった!」
と会話が始まり、四十二年の空
白が嘘のようでした。同級生
って良いですね。

宿に着くと私達は、自慢の漬
物やお惣菜、お土産がテーブル
いっぱい並び、おしゃべりが
始まります。せっかくの温泉に
入る時間を惜しむ程、みんな学
生時代にタイムスリップしてし
まいました。教科担当の先生を
怒らせてしまったことや、担任
の先生に良く注意された話、農
場実習での苦労話など、本当に
よく思い出せることに驚くばか
りでした。夕食事には近況報告
をしあい、みんなで懐かしい校
歌を歌いました(歌えるもので
すね)。同級生って良いですね。
翌日は蔵王山麓を散歩した
り、お茶を飲んだり、ゆったり
とした時が流れ、別れの時間と
なりました。

それぞれ家庭や仕事を持ち、
苦勞も多い毎日ですが、時を忘
れておしゃべりに夢中になった
集まりは、明日からの生活に「元
氣」をもたらした様でした。

楽しい機会を作ってくれた仲
間に感謝しながら、再開を約束
し、いつまでもこの仲間との交
流が続けられるように、自分自

身も元気で、楽しみにしていきたいと思います。

本当に同級生って良いですね。ふたたび校訓を心に

八巻 栄作

(商業4回・筆甫支部)

私たち商業科四回生(昭和四十四年三月卒)は、平成二十二年一月十六日に恩師小野正彦先生を囲んで久々の同級会となる「還暦を祝う会」をあぶくま荘で開いた。

個々人はその認識は薄いものの、それなりの風貌を漂わせながら、過去・現在・未来を夜を徹して語り合った。

参加は二十名(約三分の一)と少なく、親や家族の介護の為に不参加も多く、世代の環境の反映も実感させられた。

昨今の社会情勢を見ると、全体的な閉塞感の中で若者達も、大学・高校卒の就職率が最低・超氷河期で内定ももらえず

卒業して最初の職業が失業者・学校に行けず貧困家庭の連鎖等々「夢と希望」を入り口からすでに閉ざしてしまおう状況だ。

背景として、信頼を失った政治、利益第一主義の財界、ルールなき経済社会など重層だが、私たちが親世代、先輩世代として、それを選択・容認してきた責任がある事も認識すべきと思う。

振り返って我々高卒当時は、七十年安保闘争・学生運動・ベトナム戦争など政治的には混沌



平成22年1月16日 伊具高・商業科・第4回卒業還暦祝い (伊具高同窓会)

としていたが、高度経済成長期で「金の卵」や「集団就職」の後半期で、少なくとも「就職難」の文字はなく、それなりの希望は誰もが持っていた。

時勢の変化と共にいろんな波があるが、それを乗り切る為に我が母校伊具高の校訓でもある「質実剛健」(心も体も強くたくましく)、「穏健着実」(落ち着いて正確な考え方に立ち返った日常生活を送りたいと思う)。

還暦という人生の一通過点ではあるが、この機に童心や初心に返り、それぞれの社会的位置を確認しながら、役割や貢献に尽力し、長く短い道を夫々歩みながら再会の時を楽しく待ちたい。

節目の再会

黒山 幹夫

(商業6回・角田支部) 創立九十周年のお祝いを申し上げます。

今回、同窓生名簿・住所確認の機会を得て、近隣の仲間へ声を掛け四十六雁歌会を立ち上げ、準備を進め、昨年八月、実に三十八年ぶりに同窓会を開催致しました。あまりにも年月が経ち過ぎて住所が分からず、案内状に苦勞しましたが、十二名の仲間が出席してくれました。

ない年代ですが、懐かしい仲間と酒を酌み交わし、語り合う事が出来た今回の同級会は、創立九十周年の節目と荒井先生の節目が導いてくださったものだと思います。

支部だより

角田支部活動報告

伊藤 収

(普通6回・角田支部)

会場のあぶくま荘に集合、恩師の荒井今朝夫先生が亡くなられて十年になり、前日に焼香し、奥様とお話しができた事を報告、副担任の小野正彦先生に思い出話を語っていただいて会が始まり、懐かしい学生時代へと話が盛り上がり、夜が明けると話に花を咲かせておりました。

角田支部は昭和二十四・五年頃の発足で、前会長の故日下巴代治氏、本科第一回卒の故岩崎倉三氏らが中心となり、毎年二月中旬頃に総会を開催してきました。角田支部では地区ごとに世話役員があり、その方々に総会案内状の配布をお願いしています。参加されない方からも総会の開催について挨拶されることがあるので、会の存在確認のためにも喜ばしいことだと思っております。



昨年度の総会は、昨年一月の役員会で計画され、二月十三日に角田市内の中華料理かんにおいて開催されました。当日は学校から校長先生をはじめ、四名の先生方にご出席頂き、総勢二十三名の参加となりました。総会では事業・会計報告と次



年度計画の他、九十周年記念事業の内容についても説明があり、支部として記念事業を盛り上げていこうという雰囲気になりました。その後、懇親会が行われ、会員の親睦を深める和やかな会となりました。

会員の声

高校時代の思い出

大橋 裕 寿

(商業14回・大内支部)

同窓生の皆様におかれましては、おだやかな初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。母校におかれましては、昨年は創立九十周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。先日、同級生の菅野君より原稿の依頼があり、お受けすることとしました。昔から国語の苦手な私なのですが、高校時代の思い出を少し書いてみたいと思います。

私が入学したのは昭和五十一年四月。まだ新校舎が建築中で木造の校舎(二年生から晴れて新校舎に異動)で勉強しました。高校に入ったら、野球部が陸上部に入って頑張ろうと思っ

たシード権を落とし、落胆している姿を見て励ましの言葉をいただいたことや、クラブ活動中に大きな地震(宮城県沖地震)があり、一時騒然となった時に落ち着いて行動するよう指示していただいたことなどが思い出されます。この三年間の辛くても楽しかったクラブ活動での経験が、社会に出てからの頑張りにつながっていると感じております。

現在、私は丸森の観光の仕事に従事しておりますが、卒業してから三十数年経った今、また結城先生と再会し、今度は仕事関係でお世話になっております。齋理幻夜等では、生徒の皆様にも協力をいただいております。

社会人としての抱負

佐藤 可 菜

(総合7回・丸森支部)

私は昨年の四月から幼稚園教諭として働いています。

私が幼稚園で働きたいと思っ

たきっかけは、大学での実習がきっかけでした。幼稚園は保育所と違って保育時間が短いため、子ども達と接する時間が短いです。その中で先生方は子ども達と一緒に様々な経験をし、共感し合い、そして信頼関係ができています。私もち短い時間の中で、子どもはみんな保護者からも信頼され、子ども一人ひとりと様々なことで共感できる保育者になりたいと思いました。

編集後記

母校創立九十周年の記念すべき年にあたり、記念式典には三十名を越える一般会員の皆様にご参加頂きました。校歌斉唱においては、生徒はもちろん会員の皆様の歌声も会場狭しと響きわたり、母校に対する想いの強さを改めて感じる事ができました。

同窓会ホームページ開設!

12月1日より、我が伊具高校同窓会のホームページが公開されています。今年度の総会で開設が承認されたものです。

内容は、会長のあいさつ・役員名簿・会則をはじめ、事務局からのお知らせとしてイベントの情報や会報、思い出広場としてフォトアルバムが掲載されています。また、母校校歌や応援歌を聞くことも可能です。

会員の皆様にはぜひホームページにアクセスしていただき、皆様の交流に活用いただければと考えております。

本会ホームページには「伊具高校同窓会」で検索していただくか、下のURLを利用してアクセスしてください。

URL <http://www.igukou.com/>

